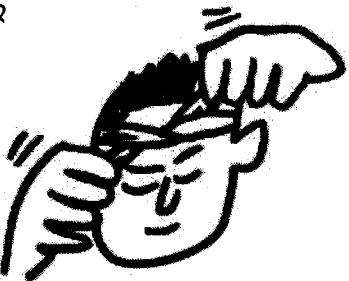


朝起きは、朝早く起きれば云われても仲良  
いからこそ、朝起きの一点を良くする事で、その影響がジワ  
ジワと家庭や会社に波及し、結果的に、事業危機からの再起を果たすことができるのです。

四月のテーマ  
再起

# 朝起きは 再建の第一歩



え・浅妻健司

**倫**

理法人会の「経営者モーニングセミナー」会場には、

「朝起きは繁栄の第一歩」という標語が掲げられています。これは、

倫理運動の創始者である丸山敏雄

が、朝の勉強会を始めるにあたつて昭和二十四年九月二十九日に制定したものでした。当初は「朝起きは再建の第一歩」とされ、やがて倫理法人会において「再建」の語は「繁栄」に改められました。

実際に、この朝起きの実践によつて繁栄をつかんだ経営者の実体験は数多くあります。

たとえば、飲食店を経営するT社長は、多額の借金による事業危機に際し、毎朝早く起きることを実践。それが倫理経営を取り入れる契機となつて、借金返済から事業拡大へとつながりました。

何故、朝起きによって標語に謳われたような「繁栄」が実現するのでしょうか。それは経営者にとって次のような効果が期待できるからです。

①余裕をもつて一日のスタートを切ることで仕事に先手を打てる。

- ②自分が覚めたらサッと起きることで、直観力や決断力が養成される。
- ③電話、訪問等に邪魔される」となく、静かに思考を深められる。

又最初失敗することと、これは尊ぶことができます。

事業上の失敗や苦難を克服した

体験報告の中には、必ず純粹倫理の観点からの深い反省と、重要な

「気づき」を見出すことができます。

そこから始まる自己革新の取組みの多くが「朝」の立て直し

を端緒としているのです。

実践ポイントとして、以下の三點を挙げることができるでしょう。

①時間に余裕をもつて早く起きる。  
②目覚めと共に切れ味鋭く起きる。  
③震えるような喜びを抱いている。

そもそも、朝起きは「働き」の始まりであり、今日一日を生きる「生」のスタートに他なりません。

社長の起きる姿は、社員も、お客様も知らないでしょう。

①②③のあり様は、自分だけが知り得るもの。朝の起き方は、作り飾り、

ごまかしの効かない本当の自分の全貌が表われる時といえます。

だからこそ、朝起きの一点を良くすることと、その影響がジワジワと家庭や会社に波及し、結果的に、事業危機からの再起を果たすことができるのです。

一人ひとりの人生の立て直しが日本創生と連なつてはいるとの自覚をもつて、ひと朝ひと朝の目覚めを大切に、働き直し、生き直していきたいものです。いつか「大きい成功の栄冠」が輝くと信じて。

失敗の意義を説いた『万人幸福の栄』第12条の一節は、日本の国生み神話に淵源し、丸山敏雄はそれを『初敗大成』の原理」と名づけました。失敗という苦難を「尊い月謝」であると受け止め、「喜んで又改めて」とりかかる。その出発点に「朝起き」があります。

さて、先の標語には再建の対象が記されておりませんが、丸山敏雄は、「国家再建」の思いを明確に抱いていました。それと自己の再建が切り離されていないところに倫理実践の肝があります。

日本創生と連なつてはいるとの自覚をもつて、ひと朝ひと朝の目覚めを大切に、働き直し、生き直していきたいものです。いつか「大きい成功の栄冠」が輝くと信じて。